NO.15

8月号

2011年8月1日発行

くるりのお便り

発行・編集
北区リサイクラー事業協同組合
TEL 03-3910-1290
Fax 03-3910-1263
〒114-0016
東京都北区上中里1-41-10

リサイクルの想い出

昔からリサイクルの生活には慣れ親しんできた。想い出すそのいくつかを紹介したい。

一

私の小学校時代の服はいつも兄のお下がりでリサイクル品であった。ズボンはもちろんその代表格であった。黒で木綿のズボンは両膝に大きな穴が開き、布でつぎ当ててあった。

手縫いなので縫い目がはっきりわかり、得体の知れない模様のように現れていた。その当て布も穴が開くくらいで弟にはとてもリサイクルできない状態になっていた。

もう長いことそんなズボンは見たことがない。

もし、今どきそんなズボンを履いている子供が歩いていたら、思わず懐かしくて膝を見つめながら家までついて行ってしまうに違いない。場合によってはそれをさすらせてもらい、それだけでは物足りず思わず頬ずりしてしまうかもしれない。

二

私の父は戦争に長く行っていて酒が好きだった。その頃は酒を買うとき家においてある空のリサイクル一升ビンを持って酒屋に行き、樽から棒状の栓を抜いて、買いたい量を計量道具である桝に入れ、じょうごを使って一升ビンに入れるのだった。樽の栓を抜いたり差し込んだりするときにキュと独特の音がする、そんな音はもう長いこと聞いたことが無い。

もし、町中でそんな音を聞いたら、そこへ行ってたたずみ15回は聞いてしまうかもしれない。

酒を買ってきて父に渡すと、早速栓を抜き湯飲み茶碗に入れて、つまみなど無く飲むのだが、口に含むとき顔をゆがめて呑む姿が頭に焼き付いていて忘れることはないだろう。

戦地でも同じように飲んでいたのだろうか。

そんな父も二十年以上前に他界した。

三

私が中学の頃アメリカから輸入されたものだと思うが、使い古しでリサイクル品のジーパンがはやったことがあった。貯めた小遣いを持って大塚駅近くの店に買いに行ったのを覚えているが、その当時でも中級品で千円以上していたので私にとっては高級品だった。たかが古布であったが、布の表面が薄くなると青地から白地が出てくる。まだ日本に無かった品なので大事にはいていたが、小さいサイズがなく裾を長い分折り曲げてはいた。腰をベルトで閉めると布が重なり合うしわがいくつも出来ていた。

もし、今そんなサイズが合わないジーパンをはいた小柄の中学生が歩いていたら、早足でそっと近づきズボンを眺め回しながら、それはもしかして大塚で買ったんじゃないかいと?聞いてしまうに違いない。

そして、もし「そうです」と礼儀正しく答えたら私はその子の両肩に手を当て、やはりそうかとつぶやいて、きっと二人で肩に手を回し一緒に写真を撮ってしまうに違いない。

四

人の美的評価は様々であるが私が学生時代に着ていた学生服は美しかった、と今でも思っている。

その学生服の使用者は私で三代目のリサイクル品であったが、厚手の純毛の服で新品のときはさぞかしバリッとしていたことだろうと想像できた。

兄はある人から貰い受け、兄の卒業と同時に私が入学したので譲り受けた。兄も運動部所属だったからしっかり着込んでいたので私が譲り受けたときはだいぶ痛んでいた。

それから更に、しかも夏を除き毎日のように五年間着たものだから裏地はボロボロで半分くらいなくなり、裏地がなくなると表地はそれにつながっているので上着のすそのところで表地のへりが垂れ下がってくる。これは私の美的感覚から許せなかったので、すぐお袋に裾のラインを合わせるよう修理を何回か頼んだ。

両袖口は擦り切れバサバサになっていたが、これにはまったく美的感覚上問題なかった。

その当時はもう普段学生服を着る者は少なく、運動部の一部と応援団の学生くらいであった。しかし応援団の学生服は襟を高めにし、服の丈も少し長くしてある特注品であったが、如何に金をかけ一流の洋裁店で作ろうとも、それは本当の学生服ではないのである。私のような学生服の専門家ならすぐ判るが、揺るがざる本当の学生服とは戦時中あの学徒動員の時、腰に手ぬぐいを下げ雨のなか神宮の森を行進したあの学生達が着ていたものが、何を隠そうこれぞ正真正銘本当の学生服なのである。

私が愛用した学生服はそれに近かったが、やはりあれにはとうていかなわなかった。まして応援団のそれは邪道であえて言うならば、学生服もどきというものであった。だからいつもお前らそれは本当の学生服じゃないんだよと教えてあげたかったが、美の眼力が無い者にそれを言っても分からない。

しかし、これは間違いの無いところなのである。

私はこの件に関しては最高裁までも争うつもりだ。

（寺田　俊二）

今月の優良団体様

今回ご紹介する『赤羽南自治会』は長きに渡り人との繋がりを大切にした活動をしています。

お祭りや季節ごとのレクリエーションなど町内で暮らしている人達の交流の機会を多く企画しています。

また、自治会長・役員の方々・町会青年部の皆さんの交流が盛んで、色々なアイデアを出し町内の活動を流動的に行なっています。

そして約20年近く月一回の集団回収を行なっています。

回収日の周知活動・回収場所の設置などはもちろん、回収作業には町会役員の方をはじめ、町会青年部の皆さんも積極的に参加してくれています。

聞いたところ、若手の参加は集団回収を始めてからずっと続いているそうです。

現在、町会の参加者の高齢化が進む中、『赤羽南自治会』は多くの若手が参加し、年齢問わず一丸となって協力し合い、『人との繋がり』という活動においてはお手本になる団体だと感じさせてくれます。

（上原　央禎）

編集後記

今回はいつもの「くるりのお便り」とは少し趣を変えて「リサイクルの想い出」と云う、情報ではなく、ある種コラムにも近い様な一面（一番上の段の記事）にしてみました。

情報を伝えるだけでなく、読者の皆様が共感してくれたらいいな。と云う想いでそうしました。

僕自身のリサイクルの想い出と云えば、

・味のなくなったガムに砂糖をつけて、また噛む。
…少し違うな。

・僕の中学時代のダサいジャージを母が履く。
…ある意味リユース??

・一度別れた彼女に復縁をせまる。
…これは言っちゃいけないやつだ!!

読者の皆様のリサイクルの想い出も聞けたら楽しいと思います。

よろしかったら気軽にFAXしてくれたら嬉しいです!!

（サクマ　ダイスケ）

集団回収・事業系回収のお問い合わせはこちらへ！
取り扱い品目
新聞　雑誌　段ボール
上質紙　古布（古着）
くるりのお便りの感想、投稿もお待ちしております！
エコアクション21 認証・登録番号0003893
北区リサイクラー事業協同組合
TEL 03-3910-1290 ／ Fax 03-3910-1263
〒114-0016 東京都北区上中里1-41-10

集団回収のオススメ

北区から助成金が支払われます（kgあたり6円）
通常は月1回でしたが、週1回から回収いたします。
積み込み作業に手を貸せなくても、周知活動にご協力いただければOK！
どんな事でもお気軽にお問い合わせください。
いつでもご説明に伺います。